

第1章 はじめに（本書：P1～4）

第2章 札幌市の現在と将来に関する考察（本書：P5～50）

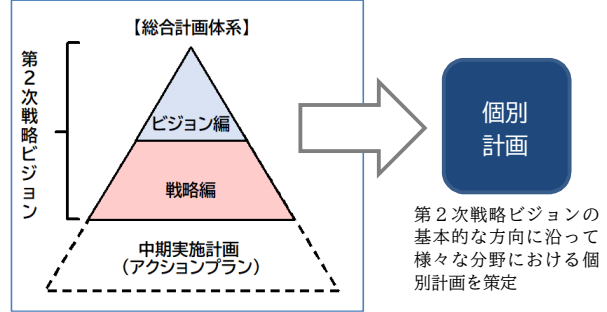
3 第1次戦略ビジョンに基づくまちづくりの取組結果

1 策定の趣旨

○札幌市の人口はこれまで増加傾向が続いてきたが、減少局面を迎えており、人口構造に変化が生じることが予想  
 ○また、今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大による人々の行動変容やデジタル化の進展など、社会経済情勢も大きく変化していくことが見込まれる  
 ○こうした状況を的確に捉え、北海道や道内他市町村とも連携して、危機感を持ち対応していくことが求められる  
 ○札幌市は、令和4年（2022年）に市制施行100周年を迎えた  
 ○魅力的なこのまちを次の世代に引き継いでいくため、SDGsの視点を踏まえ、持続可能なまちづくりを進めていくとともに、都市としての価値を創造し、高めていくことが必要  
 ○そこで、次の新たな100年の礎となる今後10年のまちづくりの基本的な指針として、「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」（以下「第2次戦略ビジョン」という。）を策定する

2 位置付け・構成

○札幌市自治基本条例第17条の規定に基づき策定  
 ○最上位に位置付けられる幅広い分野にわたる総合計画



ビジョン編 (議決事項)	・目指すべき都市像 ・目指すべき都市像の実現に向けたまちづくりの基本目標（政策の基本的な方向性）
戦略編	・まちづくりの基本目標の達成に向けて札幌市（行政）が取り組む手法（施策）
中期実施計画	・第2次戦略ビジョンに基づいて札幌市（行政）が行う事業

3 計画期間

○令和4年度（2022年度）から令和13年度（2031年度）までの10年間

1 札幌市の歴史

○札幌市は、自然の恵みと共に暮らしてきた人たちと、日本各地から移り住んできた人たちが、それぞれの伝統と文化を紡ぎ、育みながら、外国の先進の英知を取り入れ、世界的な大都市へと飛躍的な発展を遂げてきた

2 札幌市の魅力・特徴

- (1) 市民愛着度の高さ
  - 市民の札幌の街に対する愛着度は92.3%、定住意欲も他都市に比べて高い
- (2) 豊かな自然環境
  - 政令指定都市の中でも高い緑被率、冷涼な夏、年間約5mもの降雪と共存する大都市
- (3) 都市機能の集積
  - 地下鉄やJRなどの公共交通ネットワーク
  - 大学などの研究機関の集積
  - ICT関連企業の集積（政令指定都市の中で市内IT産業の事業所数は5位、従業員数は6位）
  - 医療機能の集積（人口10万人当たりの一般病院数が政令指定都市の中で2位）
  - 都心から近いウインタースポーツ環境
  - 身近な文化芸術（hitaru, Kitara等の文化芸術施設を整備、ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟が認定）
- (4) 環境面での高い評価
  - 国内の都市として初めて、国際的な環境性能評価システム「LEED」において、最高ランクの「プラチナ」認証を取得
- (5) スタートアップ・エコシステムの拠点としての評価
- (6) 都市としての高いブランドイメージ
  - 民間調査機関による魅力度ランキングで国内1位
- (7) 食の魅力
  - 食品製造事業者や飲食店が集積し、北海道産の新鮮で美味しい「食」が国内外の人々を魅了
- (8) 観光満足度の高さ
  - 外国人観光客、日本人観光客の満足度も高い数値
- (9) 住みやすさ
  - 他の大規模自治体と比べ1か月当たりの家賃が安価、通勤・通学時間も短い
  - 民間調査機関による都道府県庁所在地別「住みよい街」ランキング3位
- (10) 財政の健全性
  - 実質公債費比率や将来負担比率は政令指定都市でトップレベルの低さ

3 第1次戦略ビジョンに基づくまちづくりの取組結果

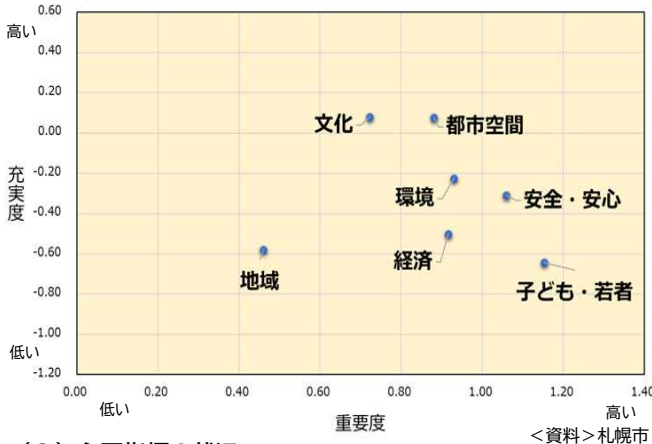
(1) 7つの「まちづくりの分野」におけるこれまでの主な取組結果（成果と課題）

分野	主な取組結果
地域	○さぼーとほっと基金への寄附件数が大きく増加し、金額も堅調に推移するなど、市民まちづくり活動の一つとして寄附文化が浸透してきているほか、企業のまちづくり活動への参加数も堅調に推移 ○地域コミュニティ活動を担う団体として町内会の重要性は認識されているものの、町内会の加入率は緩やかに減少
経済	○食や観光などの分野の活性化に加え、IT分野やクリエイティブ分野、健康福祉・医療分野などの産業が成長 ○女性や高齢者の有業率の低さや、一部の産業における人手不足といった課題が顕著
子ども・若者	○子育てしながら働くことができる環境の充実に向けて、認可保育所や地域型保育事業所などの整備を力強く推し進め、 <u>国定義での待機児童の数が0</u> となったほか、 <u>母親が就労している割合も大幅に増加</u> ○仕事と生活の調和が取れていると思う人の割合や子どもを生き育てやすい環境だと思う人の割合は低下
安全・安心	○高齢者福祉支援として、各地区福祉のまち推進センターを中心に、見守り活動などの支え合い活動を展開したことにより、 <u>生活や健康・福祉に関して困っていることや相談したいことの相談先がない高齢者の割合は大きく改善</u> ○健康寿命が男女共に全国平均を下回っていることや、 <u>ホテル等の民間施設のバリアフリー化などに課題</u>
環境	○循環型社会の実現に向けた取組を推進したことなどにより、 <u>家庭ごみと事業ごみの一人1日当たりの排出量は政令指定都市の中でもトップレベルの少なさ</u> となっているとともに、森林や農地等の保全などにより、 <u>市街地の豊かなみどりが守られている</u> ○一方、 <u>再生可能エネルギーの導入件数は鈍化</u> しており、更なる導入拡大を図っていく必要
文化	○大規模な文化芸術・スポーツイベントを開催したことなどにより、 <u>文化芸術やスポーツの鑑賞・観戦を行う市民の割合は増加</u> ○ウインタースポーツ実施率は減少傾向にあり、 <u>子どもの体力は全国平均よりも低い</u>
都市空間	○都心の民間再開発や地域交流拠点の機能強化などを進めるとともに、 <u>郊外住宅地では良好な居住環境を維持・形成</u> してきたほか、交通施設や車両のバリアフリー化を進めるなど、 <u>公共交通の利便性の向上</u> を図ってきた ○児童数の減少により小・中学校を統合した地域や、 <u>利用者の減少、運転手不足等によりバスの運行便数が減少</u> した地域などがある

第2章 札幌市の現在と将来に関する考察（本書：P5～50）

(2) 市民アンケートの結果（1万人：回答率22.7%）

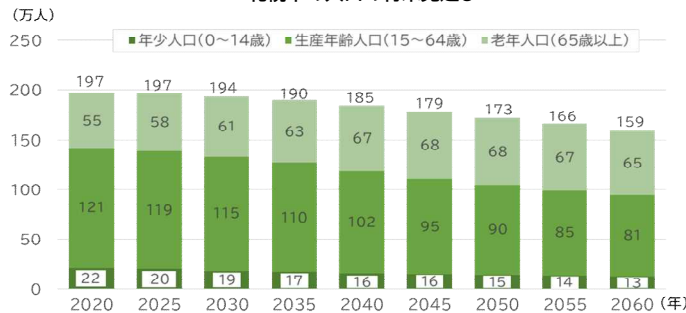
- 第1次戦略ビジョンに掲げる7つの「まちづくりの分野」と、24の「まちづくりの基本目標」に関する取組について、現在までの「充実度」と今後の「重要度」を調査
- 現在までの「充実度」は、「文化」・「都市空間」の分野が高く、「子ども・若者」の分野が低い
- 今後の「重要度」は、「子ども・若者」の分野が高く、「地域」の分野が低い



(3) 主要指標の状況

- ①人口
  - これまで増加の一途をたどってきた札幌市の人口は減少局面を迎え、人口構造に変化が生じることが予想
  - 65歳以上の高齢者人口は2040年代にピークを迎え、約4割を占める見込みであるほか、令和2年（2020年）の合計特殊出生率は1.09と少子化が進んでいる
  - 20歳代の若年層の道外への転出超過の傾向も続いており、生産年齢人口は更に減少し、推計では2040年代に100万人を割る見込み

札幌市の人口の将来見通し



<資料> 総務省「国勢調査」、札幌市  
※ 各年10月1日現在。四捨五入により合計が一致しない場合がある。

②経済

- 市内総生産（名目）は、平成20年（2008年）のリーマンショックをきっかけとした世界同時不況の影響を受けて大きく落ち込んだが、平成24年度（2012年度）以降は堅調に推移
- しかし、一人当たりの市民所得（企業の所得なども含む）は、政令指定都市の中で低位であることに加え、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により市内企業の経営や雇用に大きな影響が生じているほか、今後は、人口減少に伴う市内経済規模の縮小が予想

市内総生産（名目）



③財政

- 市税収入は、個人市民税、固定資産税などが増加したことにより、平成24年度（2012年度）と比較すると増加傾向
- 経常収支比率は比較的健全な状況を維持してきた一方で、財政力指数は他の政令指定都市と比較して低い状況であり、引き続き、財政基盤の強化を図る必要
- また、今後は、1970年代から1980年代に集中的に整備してきた公共施設の更新時期が一斉に到来

市税収入



<資料> 札幌市

4 昨今の社会経済情勢

(1) 価値観やライフスタイルの多様化

○格差なく安心して暮らすことができる共生社会の実現に向け、心のバリアフリーや子どもの貧困、児童虐待などの様々な課題への対応が必要

(2) 人生100年時代の到来

○生涯にわたって社会参加できる環境整備や健康寿命の延伸が必要

(3) デジタル技術の急速な進歩

○生活をあらゆる面で良い方向に変化させるDXを実現していく必要

(4) 気候変動などに伴う地球規模での環境保全の動き

○脱炭素社会を形成していく必要

(5) 都市のリニューアル

○民間開発の動きを最大限に活用し、投資を促していく必要

(6) 頻発する自然災害

○危機に直面した場合であっても、被害や影響を最小限に抑える必要

(7) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大

○日常生活等への影響を最小限に抑え、社会変化にも対応していく必要

5 SDGsの視点から見た札幌市

○国が示す「地方創生SDGsローカル指標（自治体がSDGsの取組の進捗状況を客観的に把握するための指標）」を用いて他の政令指定都市との比較分析を実施

○札幌市は空気がきれいで自然豊かなコンパクトな都市であるが、人口当たりの市内総生産が低位であるなど「稼ぐ」ことや「健康」の分野に課題

6 オリンピック・パラリンピック冬季競技大会の招致

○今日、大会を開催する意義としては、世界平和や団結への貢献や多様性への理解、国や地域の活性化等の大会が有する普遍的な意義に加え、大会の準備・開催を通して、ウィンタースポーツの振興、少子高齢化や生産年齢人口の減少への対応、共生社会の実現、気候変動対策などを進め、持続可能なまちや地球環境を実現していくことが挙げられる

○札幌市では、平成26年（2014年）から、初めてのパラリンピック冬季競技大会、そして2度目のオリンピック冬季競技大会の開催に向けた取組を実施

○令和3年（2021年）11月には、大会概要（案）を公表。大会の運営については原則として税金を投入せず、全て民間資金による収入で賄うとともに、施設整備については既に使われている施設を今後も使っていくための更新・改修のみを行い、大会のためだけの新しい施設は設けないこととしている

○令和4年（2022年）3月には意向調査を実施（招致に関して「賛成」の回答が過半数）。札幌市議会においても「2030年冬季オリンピック・パラリンピックの北海道・札幌招致に関する決議」が賛成多数で可決



## 第3章 目指すべき都市像とまちづくりの重要概念（本書：P51～54）

## 1 札幌市の現在と将来に関する考察のまとめ

札幌市は、自然の恵みと共に暮らしてきた人たちと、日本各地から移り住んできた人たちが、北の大地でそれぞれの伝統と文化を紡ぎ、育みながら、外国の先進の英知を取り入れていくという、様々な「ひと」のつながり・支え合いや多様性を受け入れる風土によって、短期間で飛躍的な成長を遂げてきました。

今では、年間約5mもの「ゆき」が降る地域にありながら、190万人を超える市民が生活するという、世界でもまれな都市に発展しています。また、北海道の中心都市として、都市機能を高めながらも、郊外に広がる森林や都心の大通公園などの豊かな「みどり」を保っています。

この「ゆき」との共生や「みどり」との調和も札幌市が持つ魅力であり、これらを生かして、さっぽろ雪まつりやアジア初の第11回冬季オリンピック競技大会の開催、札幌芸術の森やモエレ沼公園の造成などの世界に誇るプロジェクトを成功させてきました。

このような特徴を持つ札幌市は、令和4年（2022年）に市制施行100周年を迎え、次なる100年のスタート地点にいます。一方で、これまで増加の一途をたどってきた人口も減少局面を迎え、少子高齢化や生産年齢人口の減少が更に進行し、これらに起因して市内経済規模の縮小や公共交通の利便性の低下などの日常生活への影響が懸念されるほか、長期的な市税収入の減少や社会保障などの財政需要の増大により、行政サービスの低下につながりかねない状況となっています。

また、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大は、市民生活や社会経済活動に大きな影響を及ぼしており、こうした感染症との共存や感染症の収束後を見据えた取組も必要です。さらに、令和12年（2030年）までの持続可能な開発目標（SDGs）の達成や、脱炭素社会の実現に向け、国際社会の一員としての取組を加速させていく時期でもあります。

このため、今後は、人口減少の緩和を進めることはもとより、人口構造を始めとする様々な変化に大きな影響を受けず、その変化を積極的に生かし持続的に成長していくことが必要です。

## 2 目指すべき都市像とまちづくりの重要概念

札幌市の特徴である「ゆき」や「みどり」といった自然の恵みが守られ、さらには生かされた中で、子どもから大人までのあらゆる世代の「ひと」や多様な「ひと」が交わり、一人一人の思いがつながって、新しい時代にふさわしい真に豊かな暮らしを創る、また、経済や学術、スポーツ、文化、健康、環境などの様々な分野において、新たな価値を生み出す。このことで、国内外から活力を呼び込み、人口減少などの成熟社会における課題を一早く解決する拠点として、世界をリードし、持続可能で、多様性と包摂性のある世界都市を目指します。

そのためには、誰もが互いにその個性や能力を認め合い、多様性が強みとなっていること、誰もが生涯健康で、学び、自分らしく活躍できていること、誰もが先端技術などにより快適に暮らし、新たな価値の創出に挑戦できることが重要です。そこで、「目指すべき都市像」と「まちづくりの重要概念」を次のとおり定めます。

## &lt;目指すべき都市像&gt;

**「ひと」「ゆき」「みどり」の織りなす輝きが、豊かな暮らしと新たな価値を創る、持続可能な世界都市・さっぽろ**

## &lt;まちづくりの重要概念&gt;

## ユニバーサル(共生)

「誰もが互いにその個性や能力を認め合い、多様性が強みとなる社会」を実現するに当たっては、多様性と包摂性があり、格差なく均等に機会が得られる社会の実現を目指して、移動環境や建物等のバリアフリー化や心のバリアフリーなどを進め、日常生活を始めとして様々な場面における障壁や困難を解消し、誰もが他者となつながら、交流できる環境を整えていくことが必要になります。

そこで、「誰もが多様性を尊重し、互いに手を携へ、心豊かにつながる。また、支える人と支えられる人という一方向の関係性を超え、双方向に支え合うこと」を「ユニバーサル（共生）」として「まちづくりの重要概念」に定めます。

## ウェルネス(健康)

「誰もが生涯健康で、学び、自分らしく活躍できる社会」を実現するに当たっては、人生100年時代の到来を踏まえ、健康寿命の延伸の観点から、働く世代や若年層を対象とした「予防・健康づくり」や、居心地が良く歩きたくなる空間の形成などが必要になるほか、生涯学習や学び直しの場とともに、年齢の枠に捉われず、学習の成果や経験を生かす機会の充実などが求められています。

そこで、「誰もが幸せを感じながら生活し、生涯現役として活躍できること。身体的・精神的・社会的に健康であること」を「ウェルネス（健康）」として「まちづくりの重要概念」に定めます。

## スマート(快適・先端)

「誰もが先端技術などにより快適に暮らし、新たな価値の創出に挑戦できる社会」を実現するに当たっては、デジタル技術の急速な進歩を踏まえ、様々な資源を掛け合わせ、新たな価値を生み出していく観点から、スマートシティの推進、スタートアップを創出・育成する環境の整備や知的生産を行う人材の育成のほか、「ゆき」の利活用の取組が必要です。また、気候変動などの地球環境の状況を踏まえ、ゼロカーボンやレジリエンス（自己回復力・強じん性）の向上に資する取組が求められています。

そこで、「誰もが先端技術などの利点を享受でき、生活の快適性やまちの魅力が高まっていること。誰もが新たな価値や可能性の創出に向けて、挑戦できること」を「スマート（快適・先端）」として「まちづくりの重要概念」に定めます。

## 第4章 まちづくりの基本目標（本書：P55～88）

○「目指すべき都市像」の実現に向けて、第2章の考察から札幌市の強みや弱み、機会と脅威を整理するとともに、「まちづくりの重要概念」である「ユニバーサル（共生）」・「ウェルネス（健康）」・「スマート（快適・先端）」のほか、SDGsの理念やゴールを踏まえて考察し、8つの「まちづくりの分野」と20の「まちづくりの基本目標」を定める

分野	基本目標	目指す姿
子ども・若者	1 安心して子どもを生み育てることができる、子育てに優しいまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 社会全体が、妊娠期を含めて子どもと子育てを支えています。また、子育てする人同士の交流も進んでいます。</li> <li>2 多様なニーズに応じた保育サービスや、児童が放課後に過ごす安全で心地よい居場所が整っています。</li> <li>3 ワーク・ライフ・バランスが広く定着し、性別を問わず、働きながら安心して子育てができる環境が整っています。</li> </ul>
	2 誰一人取り残されずに、子どもが伸び伸びと成長し、若者が希望を持って暮らすまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 子どもの権利の保障が進み、子ども一人一人が自分らしく伸び伸びと過ごしています。また、虐待やいじめなど、権利が侵害される事態が未然に防がれ、事態が起きても迅速かつ適切に対応しています。</li> <li>2 支援や配慮が必要となる子どもや家庭が、困難な状況に応じた適切なサポートを受け、安心して過ごしています。</li> <li>3 若者は、質の高い教育などを通して成長するとともに、安心して過ごせる居場所をよりどころに社会とつながり、将来への希望を持ちながら輝いています。</li> </ul>
	3 一人一人の良さや可能性を大切に教育を通して、子どもが健やかに育つまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 多様性が尊重された環境の下で、子どもは、自分の特性や興味・関心に応じた学びと他の子どもとの協働的な学びなどを通して、自立に向けて成長しています。</li> <li>2 子どもは、生涯にわたって心身の健康の保持増進を図る資質や能力を身に付けています。</li> <li>3 地域社会での体験活動など、多様な学びの機会が提供され、学校、家庭、地域、企業等が連携して子どもの成長を支えています。</li> </ul>
生活・暮らし	4 誰もが健康的に暮らし、生涯活躍できるまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 あらゆる世代の市民や企業の健康への意識が高まり、健康づくりや介護予防の取組などに積極的に参加することで、誰もが生涯元気に過ごしています。</li> <li>2 誰もが生涯にわたって学び、また、学び直しをすることができ、その成果が日々の生活はもとより、まちづくり活動や仕事、ボランティア活動などに生かされています。</li> </ul>
	5 生活しやすく住みよいまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 多様なニーズに応じた住まいが確保されているとともに、在宅医療や身近なかかりつけ医が普及しているなど、医療体制が整い、支援を要する方とその家族は、医療・介護・福祉の連携の下、適切な支援を受けています。</li> <li>2 建物や道路などのバリアフリー化やユニバーサルデザインの導入が進み、誰もが円滑に移動することができ、快適に利用できる環境が整っています。</li> <li>3 誰もが申請や相談等の手続きをオンラインで完結することができるなど、社会のデジタル化が進むことにより、官民によるサービスの利便性が高まり、市民生活の質が向上しています。</li> <li>4 市民・企業・行政の連携やICTの活用などにより、市民の多様な暮らしを支える交通環境が保たれているとともに、持続可能な除排雪体制の下で冬期の道路環境が確保されています。</li> </ul>
地域	6 互いに認め合い、支え合うまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 年齢・性別・障がいの有無・国籍・民族・宗教・文化などの違いを互いに認め合い、尊重し合う、平和で包摂的な社会となっています。</li> <li>2 世代や国籍を超えた交流や趣味を通じた交流などにより、市民のつながりが深まり、相互の信頼や協力が得られる社会が形成されています。</li> </ul>
	7 誰もがまちづくり活動に参加でき、コミュニティを育むまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 誰もが自身のライフスタイルに合わせながらまちづくり活動に参加し、支え合いながら地域の課題を解決しています。また、区役所やまちづくりセンターが拠点となり、様々な活動が推進されています。</li> <li>2 誰もが市政を身近なものと感じ、計画の立案段階などから積極的に参加しています。</li> <li>3 良好な生活環境の維持につながる地域コミュニティの中核として、地縁による団体（町内会・自治会）が生き生きと活動しています。</li> <li>4 地縁による団体（町内会・自治会）、福祉のまち推進センター、NPO、商店街、企業などの多様な主体が参画し、地域に密着したまちづくり活動が進んでいます。</li> </ul>
安全・安心	8 誰もが災害に備え、迅速に回復し、復興できるまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 地震災害や風水害・雪害といった自然災害や感染症の感染拡大などが起きてても、生活や経済への影響を最小化するとともに、感染症の感染拡大を早期に抑えることができます。</li> <li>2 災害時や感染症の感染拡大時においても、誰もが安心して医療や介護を受けることができます。また、一人で避難することが難しい方への細かな配慮がなされているなど、被災者の安全が確保されているとともに、復旧復興に向けて誰一人取り残さずに市民に寄り添った支援が行われています。</li> <li>3 防災への意識が向上し、誰もが冬季の災害も想定した備えを行っています。また、有事の際には一人一人が主体的に行動し、協力し合うなど、地域の防災力が高まっています。</li> </ul>
	9 日常の安全が保たれたまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 犯罪や消費生活に関するトラブルの発生が未然に防止されています。</li> <li>2 強じんな消防・救急体制が構築され、市民の安全・安心が守られています。</li> <li>3 交通ルールや自転車マナーが遵守され、事故の少ない安全な交通環境が実現しています。</li> <li>4 食の安全が守られ、誰もが健やかで豊かな食生活を送っています。</li> </ul>



分野	基本目標	目指す姿
経済	10 強みを生かした産業が北海道の経済をけん引しているまち	<ol style="list-style-type: none"> <li>札幌市・北海道の強みである食や観光分野の産業が、時代の潮流を的確に捉え、国内外からの新たな消費を生み出し、札幌市はもとより北海道の経済成長をけん引しています。</li> <li>IT分野やクリエイティブ分野、健康福祉・医療分野の産業が、国内外から投資や人・企業を呼び込み、札幌市の新たな強みとして更なる成長を遂げています。</li> </ol>
	11 多様な主体と高い生産性、チャレンジできる文化が経済成長を支えるまち	<ol style="list-style-type: none"> <li>中小企業・小規模企業や商店街など、事業を営むもの全ての活動が活発で、地域のにぎわいや経済を支えています。</li> <li>様々な分野でデータや先端技術が活用され、生産性が向上することにより、人口減少社会においても持続的な経済成長を遂げています。</li> <li>行政、大学、民間組織などの関係機関が一体となり、起業家を育成・支援する体制や環境が充実し、誰もがチャレンジできる文化が根付くことにより、多くのスタートアップが生まれ続けています。</li> <li>様々な企業の立地や創業が進むことにより、産学官連携や、国内はもとより海外の企業などとの交流が活発に行われ、ビジネスチャンスや新たな価値が創出され続けています。</li> </ol>
	12 雇用が安定的に確保され、多様な働き方ができるまち	<ol style="list-style-type: none"> <li>安心して働くことができる魅力的な雇用が安定的に確保されるとともに、企業も必要とする人材を確保できています。</li> <li>多様な人材が自身の持つ能力を発揮し、誰もがやりがいや充実感を得ながら働くことができるとともに、高い専門性を生かすことができる職場で、若い世代を始めとした幅広い年代の人材が活躍しています。また、こうした多様性が、イノベーションをもたらすきっかけとなっています。</li> <li>働きやすい職場環境が整備されるとともに、多様で柔軟な働き方や、仕事と生活の調和の取れた生き方が実現しています。</li> </ol>
スポーツ・文化	13 世界屈指のウィンタースポーツシティ	<ol style="list-style-type: none"> <li>身近なところでウィンタースポーツを楽しむことのできる環境が充実しています。また、札幌市で育ったウィンタースポーツのアスリートが国内外で活躍しています。</li> <li>豊富な降雪量と都市機能を合わせ持つ世界でも希少な環境を生かして、大規模なウィンタースポーツ大会を誘致・開催し、世界から注目されています。</li> </ol>
	14 四季を通じて誰もがスポーツを楽しむことができるまち	<ol style="list-style-type: none"> <li>誰もがスポーツを楽しみながら、心身共に健康で充実した生活を送っています。また、スポーツで得られた知見が市民の健康づくりなどに生かされています。</li> <li>スポーツをきっかけに国内外から人が訪れ、地域経済が活性化しています。</li> </ol>
	15 文化芸術が心の豊かさや創造性を育み、世界とつながるまち	<ol style="list-style-type: none"> <li>誰もが文化芸術に親しみ、創作や表現ができる環境が整い、多様な価値観が受け入れられています。</li> <li>札幌市ならではの文化が育まれ、世界に発信され、多くの人が集まるとともに、様々な分野との連携によって新たな価値が創出され、まちの魅力が向上しています。</li> <li>文化・文化財を適切に保存し様々な形で生かすとともに、札幌市への愛着を深めることで、札幌市の自然・歴史・文化が未来へ継承されています。</li> </ol>
環境	16 世界に冠たる環境都市	<ol style="list-style-type: none"> <li>脱炭素社会の早期実現に向け、更なる省エネルギー化に加え、北海道・さっぽろ圏の豊富な再生可能エネルギーの導入拡大や新たなクリーンエネルギーである水素エネルギーの活用のほか、ゼロエミッション自動車の普及が進んでいます。</li> <li>エネルギー利用に関する世界トップレベルの取組が展開され、高い環境性能と強じん性を兼ね備えた都心が形成されています。</li> <li>誰もがごみの減量・再使用・リサイクルなどに積極的に取り組むとともに、近隣地域と資源を補完し支え合う地域循環共生圏の形成を含めた循環型社会が構築されています。</li> <li>誰もが経済・社会とのつながりを理解しながら環境保全や気候変動対策などに取り組んでおり、ライフスタイルの変革や技術革新が進んでいます。</li> </ol>
	17 身近なみどりを守り、育て、自然と共に暮らすまち	<ol style="list-style-type: none"> <li>森林、農地、公園や河川などの保全・創出・整備により、豊かなみどりのあるまちの中で、誰もが健康的で幸福度の高い生活を送っています。</li> <li>森林や公園などの身近なみどりが自然との触れ合いや人々の交流の場に加え、防災、経済活動、水源かん養、二酸化炭素の吸収などの多面的な機能を発揮し、都市の魅力やレジリエンス（自己回復力・強じん性）を高めています。</li> <li>生物多様性が広く理解され、地域本来の生態系が維持された中で自然と人が共生しています。</li> </ol>
都市空間	18 コンパクトで人にやさしい快適なまち	<ol style="list-style-type: none"> <li>都市空間の種別に応じた土地利用と四季の変化が感じられる良好な景観の形成などにより、多様なライフスタイルを実現できる魅力あるまちになっています。</li> <li>「地域交流拠点」では、商業・サービス機能や行政機能など多様な都市機能の集積が進み、快適な交流・滞留空間や歩きたくなる空間が形成され、様々な活動が行われています。</li> <li>「複合型高度利用市街地」では、集合型の居住機能と多様な生活利便機能が集積し、「一般住宅地」では、多様な居住機能と生活利便機能が調和を保って立地し、「郊外住宅地」では、地域特性に応じた生活利便機能が確保されたゆとりある良好な住環境が維持されています。</li> <li>四季を通じて、誰もが快適に利用でき、環境にもやさしい移動環境・手段が整備されることにより、公共交通を軸とした持続可能でシームレスな交通ネットワークが確立されています。</li> </ol>
	19 世界を引き付ける魅力と活力あふれるまち	<ol style="list-style-type: none"> <li>「都心」では、民間投資が活発化し、新しい時代にふさわしい高次の都市機能の集積が進んでいます。また、快適な交流・滞留空間やみどりの創出、移動環境の充実により、魅力的でうるおいのある歩きたくなる都心が形成されるとともに、データや先端技術の活用などにより、イノベーションが創出され、新しい価値が生まれ続けています。</li> <li>「高次機能交流拠点」では、国際的・広域的な観点を持った産業や観光、スポーツ、文化芸術などの都市機能の高度化と集積が進み、国内外問わず、多くのヒト・モノ・投資・情報を呼び込んでいます。</li> <li>「工業地・流通業務地」では、操業環境の保全や土地利用の再編、低未利用地等の適切な活用などにより、老朽化した施設の更新や機能の高度化・複合化が進んでいます。</li> <li>広域交通ネットワークの充実・強化により、道内の都市や観光地を始め、国内外の地域とのつながりが深まり、新たな交流が促進され、さっぽろ圏はもとより北海道全体の社会経済活動が活発化しています。</li> </ol>
	20 都市基盤を適切に維持・更新し、最大限利活用するまち	<ol style="list-style-type: none"> <li>道路、交通施設、上下水道、公園、河川、廃棄物処理施設等のインフラや、住宅、事務所、区役所、学校、スポーツ施設等の建築物は、老朽化のほか、必要な機能や人口動態、地域の特性なども踏まえ、計画的な維持・保全・更新・再配置・複合化が行われ、誰もが快適に利活用しています。また、ICTや先端技術の活用により、効率的な維持・保全や施設規模の適正化などが行われています。</li> <li>公共施設では、整備や運営・維持管理などに関する積極的な官民連携により、市民ニーズ・社会経済情勢を捉えた多様で柔軟なサービスの提供が行われています。</li> <li>道路や広場などの都市基盤等の空間が有効に利活用され、まちにゆとりやにぎわいが生まれています。</li> </ol>

## 第5章 目指すべき都市像の実現とまちづくりの基本目標の達成に向けて（本書：P89～92）

## 1 市民が主役のまちづくり・多様な主体による連携

札幌市自治基本条例にも定められているとおり、まちづくりは市民が主役であることを基本としています。子どもから大人までのあらゆる世代の市民や企業、各種団体、行政など、まちづくりに関係する様々な主体が、第2次戦略ビジョンを共通の目標として広く共有し、それぞれの持つ力を発揮しながら、連携して取り組んでいくことが必要です。

## 2 北海道と共に発展する札幌市

札幌市は、多くの人口を抱える大消費地であり、その社会経済活動は、道内各地域の生産者や、自然、資源、エネルギーなどに支えられています。一方で、札幌市は大都市ならではの機能を通じて各地域を支える役割を担っており、札幌市と北海道の発展は一体の関係にあります。

今後は更に連携を深め、地域循環共生圏の形成を進めるとともに、札幌市の持つ集客、消費、流通などの機能のみならず、大学や産業支援機関等による研究・商品開発の機能と道内各地域が持つ資源を結び付けるなどして、双方の発展を目指していく必要があります。

また、さっぽろ連携中枢都市圏のけん引役としても、関係自治体と共に考え、連携しながら国内外から活力を呼び込んでいきます。

## 3 SDGsの視点を踏まえたまちづくり

まちづくりを進めるに当たっても、SDGsの17のゴールのみならず、「誰一人取り残さない」という理念や「経済・社会・環境」の3側面の課題の統合的解決という視点を踏まえて取り組んでいく必要があります。

この統合的解決の視点を踏まえたまちづくりにおいては、例えば、居心地が良く歩きたくなるまちづくりを進める際に、歩行環境の改善や魅力的な空間の整備により、人の往来を増やし、まちににぎわいを創出するとともに、一人一人の健康増進や自家用車などによるエネルギー消費の抑制にもつなげるなど、複雑化する課題に対し、多角的な視点から様々な要素を統合的に捉えていくことが求められます。

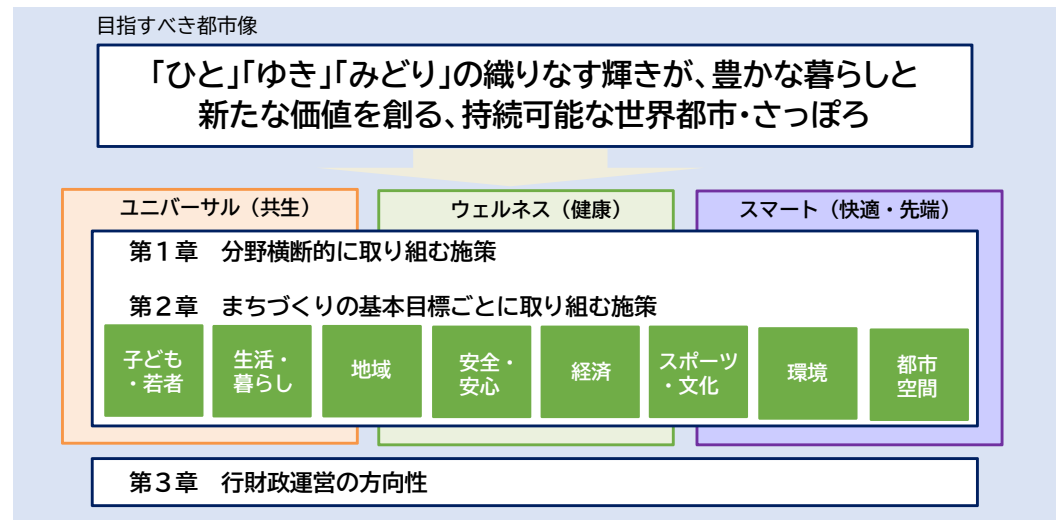
## 4 第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン（戦略編）の策定

今後は、より複雑化した課題が顕在化することも見込まれます。このため、より一層「分野横断的」に課題に立ち向かい、戦略的にまちづくりを進めていくことが重要となります。

そこで、第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン（戦略編）では、「目指すべき都市像」を実現するため、「まちづくりの重要概念」である「ユニバーサル（共生）」・「ウェルネス（健康）」・「スマート（快適・先端）」を踏まえて、分野をまたがる課題・観点を整理し、分野横断的に取り組む「施策」と「まちづくりの基本目標」ごとに取り組む「施策」を定めます。

その上で、施策の着実な推進を支える観点である行財政運営の方向性についても併せて定めます。また、施策の評価やその結果を踏まえた改善を適時行っていくため、指標の設定などの進捗管理の手法も戦略編で定めます。

## &lt;第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン（戦略編）の構成&gt;



## 5 オリンピック・パラリンピック冬季競技大会によるまちづくりの加速化

オリンピック・パラリンピック冬季競技大会がもたらすレガシーは、「まちづくりの重要概念」と密接に結びつくものです。

例えば、「ユニバーサル（共生）」の観点では、大会の開催を契機として、障がいのある方を含む様々な方を国内外から迎えるために建築物や宿泊施設のバリアフリー化が進むとともに、心のバリアフリーが市民などに広く浸透することが見込まれます。

また、「ウェルネス（健康）」の観点では、スポーツを「する・みる・ささえる」の充実は、心身の健康を増進し、生涯現役として活躍できる期間を延ばすものです。加えて、この大会はスポーツの祭典であると同時に「文化」の祭典でもあります。このため、札幌市ならではの文化を世界に発信することができるのと同時に、文化に親しむ機会や創造力と感性を育む機会が増え、精神的な健康につながります。

さらに、「スマート（快適・先端）」の観点では、令和12年（2030年）以降のオリンピック競技大会は、温室効果ガスの削減量が排出量を上回る「クライメート・ポジティブ」な大会であることが求められています。その実現のため、大会をきっかけに新しい環境技術が活用されることで、札幌市発の「環境のレガシー」が世界中に広まります。これは、地球温暖化という人類共通の課題を解決に導く手立ての一つとなり、札幌市が世界にもたらす好影響であるといえます。

また、大会の開催が決定した後、開催都市を訪問する外国人の数が長期間にわたって増加する傾向があることに加え、大会を通じて世界に誇れるスノーリゾートとしての地位を確立することにより、様々な産業への波及効果が期待されます。

このように、オリンピック・パラリンピック冬季競技大会の準備・開催は、市民のまちへの愛着や一体感の醸成はもとより、今日的な課題を克服し、札幌市というまちを新たなステージへと押し上げていくことが見込まれます。札幌市では、この機を捉え、「目指すべき都市像」の実現と「まちづくりの基本目標」の達成に向けた様々なまちづくりの取組を官民一体となって加速させていきます。